
さよなら...？

聖魔光闇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

さよなら…？

【Nコード】

N43180

【作者名】

聖魔光闇

【あらすじ】

最近すれ違う二人、その結末は…。

(前書き)

まずはご覧あれ。

最近、僕達はすれ違つてばかりだ。君が僕の終わりを待っていてくれた時にかぎって、補習や部活が長くなる。僕が君の帰りを待っている時にかぎって、君は誰かと出掛けると言う。

僕らは愛し合っている。いや、愛し合っているはずだ。僕は君が好きで、君も僕を好きだと言ってくれる。それが愛し合う二人の真実だ。

日曜日、久しぶりに君と僕の予定がなかったので二人で出掛ける事にした。待ち合わせ場所は、いつものあの場所。僕は急いで支度を済ませ、家を飛び出した。

「大和」と君は息を切らせて笑顔で走ってくる。待ち合わせ時間10分過ぎ、いつもの話だ。「美香、今日はどこに行こうか。久しぶりだから、ゆっくり話したいな」僕がそう言うと、君は横に来て腕を組んでから「じゃあ、どこかで食事しようよ」と言った。

美香とレストランに入り、それぞれ注文する。「もう！大和やつぱり私より少ない」と美香は、少しすねた表情をする。しかし、そこもまた可愛い。久しぶりにあったから、話は絶えなかった。電話もいつも留守電でメールしても忙しいそうだったから返事もなかった。しばらく話して美香が突然「大和、私達別れよっか」と言った。「どうしてさ」と言ったが、「最近すれ違つてばかりで、あまり逢えないよね」ってつないでいた手を離された。離される時、握り返そうとしたが、振り払われた。

しばらく沈黙が続いたあと、美香が突然立ち上がった。「大和、今までありがとう。元気だね。今日は大和のおごり。よろしく」と笑顔で言っていたが、目に涙をためて言ったあと、逃げるように走り去った。

しばらく僕は呆然としていたが、携帯を取り出すと美香のアドレスを消去してから、電話をかけた。「佳乃お？ やつとケリついたぞ。美咲？ 泣いてたけど、あいつから別れ話持ってきたんだぜ。ラッキーだったな」と言うのとタバコに火を付けた。「そう美香と別れたんだ。やつとだね。じゃあ、私の役目もここまでだね。本当はね、美香に頼まれてたんだ。大和と美香、大和と私って大和が二股かけてるの美香は知ってたから。私大和を独り占めするように言って、美香と別れたら私も別れるようになって。知らなかったでしょ？ じゃあね。プレイボーイさん」と言うのと佳乃は電話を切ってしまった。愕然とした気分でレジでお金を払うと、とぼとぼと家に帰った。

「おかえり」とリビングで女がテレビを見ている。「お前なあ。二人一度に切るのはしんどいわ」と言うと、女の隣に座ると肩を抱き寄せ、タバコに火を付けた。

「そんな事言っただって大和がいけないんですよ！ 私がいるのに、二人も手え出すから！」と僕に口づけをしてきた。「悪かったよ。ごめん。これからは、ちゃんと遥だけを見るからさ！」と抱き締め

『まだ、あと一人いるの知ったら遥、怒るよなあ……』

(後書き)

ひどい男を書きました。こんなヤツやっぱ最低だと思います？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4318o/>

さよなら...？

2010年10月21日17時06分発行